

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
親・子ども・教師の好循環！	① 支持的風土の学年・学級経営の促進 ② 組織での指導體制の強化 ③ 教職員の資質向上(授業力・学級経営力・サービス意識・組織力等)の促進 ④ 保護者・地域との連携(情報発信と相互の活用) ⑤ 学習指導要領に即した教育課程の改善(年間指導計画の見直し) ⑥ 学校予算の効率的活用(学校事務共同実施及び施設設備の充実・改善)

【達成度】

A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である



3 目標・評価

① 支持的風土の学年・学級経営の促進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実 ○心の教育3点セットの活用	・体験活動を生かした心に響く実践を行う。	・「いのちの教育指導資料」や「伊万里っ子しぐさ」、「童謡歌集」を生かした授業を全学級で実践し、ボランティア活動や心を育む「家読」を充実させる。	B	・放送委員会の児童が、「伊万里っ子しぐさ」は毎朝、「ふるさとの童謡」は木曜日の給食時間に放送した。「いのちの教育資料」を活用した授業を呼びかけ、多くの学級で実践できた。ふれあい道徳における地域への各学級の公開授業も充実しており、今後も一層心の教育に取り組んでいく。	・「ふれあい道徳」における地域への各学級の公開授業を更に充実させ、今後も一層心の教育に取り組んでいく必要がある。 ・多くの方に来ていただくため、「安心メール」や学校だより等でもお知らせをする。
		人権・同和教育の充実	・授業内容の充実を図り、人権感覚の育成を図る。	・日常生活の問題等から、教材を開発・工夫し、授業実践を行う。	B	・人権教育に関する職員図書コーナーを設け、より良い取組が各学年で行われるよう工夫した。 ・学年別の人権教室や全校での人権集会・平和集会等を開いて、児童の人権感覚をよりよく育てる取組を行った。	・集会活動や道徳、学級指導などで仲間づくりの土台となる人権感覚は少しずつ育っている。 ・いじめやかからかい、暴力等の人権意識の低さから起こったトラブルに対して、教員自身が敏感になって対応していく。
		教育相談の充実	・保護者面談の他、医師、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健師、民生委員等関係機関との連携に努める。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的な活用など、教育相談機能の充実を図る。	B	・学校だけでは対応が難しい事案に対して、SC・SSW・家児相・障がい者生活支援センター・放課後デイサービス等と協力しながら解決に尽力できた。 ・月に一度のSCとの面談計画・実施・教員カンファレンスを勤務時間内に行いたい、SCとの勤務時間が合わず時間外になってしまう。	・不登校や問題行動の状況に応じたSCの効果的な活用のために組織的な取組を継続していく。また、今後もSSWや外部機関等とも連携をとりながら、問題解決に尽力する。 ・直接話す時間が無ければ、教育相談担当が窓口となり、必要な情報を行き来させる。
活教育	●○いじめ・不登校への対応	いじめ・不登校をなくす風土づくり いじめ・不登校に対応する体制づくり	・アンケートの実施や日常の観察等から、いじめの早期発見に努め、いじめ防止、不登校傾向、問題を抱える子への組織的な支援の充実を図る。	・毎月「心のアンケート」を実施し、早期発見に努める。 ・保護者、担任、生徒指導主任、教育相談担当、級外などの連携を密にし、組織としての支援を充実させる。 ・学校いじめ対策委員会において、支援の具体的方法について話し合う。	B	・毎月「心のアンケート」を実施し結果をまとめることで児童の状況を把握することができたので、素早く対応できた。 ・不登校児童については、担任や養護教諭、管理職等が連絡をとり訪問をしたりしているが、好転できない状況が続いている。 ・物隠しが続発する事案が起こったが、児童や保護者に丁寧に対応し、一応の解決に至った。	・今後も「心のアンケート」の実施を継続し、いじめの早期発見に努める。気になる事案については、これまで同様、担任だけでなくチームで対応していくとともに、児童の様子や課題などを適宜保護者に知らせていく。また、いじめの未然防止のため、学級の支持的風土の醸成に努める。
活教育	特別支援教育	特別支援教育の推進	・児童の実態に即した具体的な支援の内容・在り方を探る。	・ケース会議で児童の実態を把握するとともに、対応について協議・共通理解をする。 ・学校全体の支援体制を整備する。 ・校内支援委員会の定例開催により、児童の現状を確認し、支援の方法を考え実践する。	B	・児童の行動や家庭状況等を共通理解し、解決に向かうためのケース会議を、時には外部機関を交えながら充実させた。 ・全校の気になる児童についての現状と対応について、共通理解を図る場を定期的に設けることができた。	・個別の指導計画やケース会議、支援体制のあり方を見直し、更なる充実を図る。校内体制のみならず、外部機関とも連携し、多面的に支援できるダイナミックな体制を構築する。 ・今後も支援委員会を定期的に行い、児童の現状や対応の共通理解を図る。

② 組織での指導體制の強化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運学校	学校経営方針	学校教育目標、本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知し、認知度を90%以上に上げる。	・多様な機会(職員会議、集会、保護者会、学校便り、学級便り等)を利用し、周知する。	A	・「親・子ども・教師の好循環！」という学校教育目標が、学校便りや学級通信、保護者への資料等、様々なところに記載され、かなりの認知を得た。 ・育友会総会や育友会実行委員会、地域の会合等に出席した折、大坪小教育活動の実際についてお伝えしてきた。	・あらゆる機会を利用して、新しく設定された学校教育目標の周知徹底を図るよう今後も努力を続ける。 ・ホームページの更新はもちろん、昨年度から使用している「安心メール」の効果的な活用を考え、本校の教育活動を広く知らせる。
運学校	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導	・通学路の点検や休日前の生活指導の充実を図る。	・毎月20日の安全点検と、学期ごとに通学路の安全点検を実施する。 ・通学路については、保護者や地域の方にも危険箇所の確認をお願いし、危険箇所マップの改訂を行う。	B	・学校設備の安全点検は確実に実施することができた。 ・学校職員による担当地区の通学路の安全点検を行った。しかし、回数としては少なかったので検討する。 ・育友会の地区分会長に危険箇所の確認をお願いし、実際に見に行くなど徹底できた。	・今後も通学路の点検等を計画的に実施し、随時危険マップの改訂を行うことで児童や保護者の危機意識を高めていきたい。 ・育友会の地区分会長さんに安全点検の協力を依頼し、教職員では気付かないような地区内の危険箇所を把握する。
		○食物アレルギー等への対応	・食物アレルギー対応が必要な児童の情報を職員全員が共有し、学校全体で組織的に対応する。	・食物アレルギーのある児童の一覧表を作成し、確実な把握とそれぞれの対応や薬の所在の共通理解を図る。 ・担任が不在でも適切に対応できるように、必ずアレルギーの情報を補欠者が確認する。	B	・年度当初に、配慮が必要な児童について確認をした。夏休みの研修においては緊急時の対応についてエビベン練習具を使って確認を行った。 ・担任には、献立表が届いた時点で配慮が必要な献立について知らせた。また、担任が不在の場合は補欠計画表に必ず児童名を記入した。	・今後も配慮を要する児童の増加が見込まれるので、危機感を持って対応する。アレルギーの詳細について、さらに共通理解を深める。 ・エビベン練習具を使った実践的研修を引き続き行い、職員全員の意識とスキルを高める。 ・食物アレルギーをもつ児童には、管理票を100%提出してもらう。

③ 教職員の資質向上(授業力・学級経営力・サービス意識・組織力等)の促進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
活教育	教職員の資質の向上	授業実践の向上	・校内研修を中心に、指導技術と授業づくりの力量を高める。	・アクティブラーニングや問題解決学習(西部型授業)の実践など授業改善に努める。 ・全員参加の授業公開と協議を活活性化させ、校内研究を核とした職員集団づくりを行う。	B	年6回の大きな授業研究会(公開授業含む)を行い、算数科の授業作りについて学び合い、各自の授業改善に努めることができた。問題解決学習の流れの中で、思考力・判断力・表現力の伸長を目指す研究を深めながら、児童にとって魅力的で必然的な課題設定を考えてきた。	・研究主任を中心に、課題を明確にしながら授業改善に努める。 ・県の研究指定の関係で来年度も公開授業を行うので、より多くの先生方から助言をいただき、授業力の向上に努める。 ・引き続き、学級経営力の向上にも努めたい。

活教育	●学力の向上	○授業と家庭学習とのつながり	・毎日の家庭学習時間を確保させる。 ・「家勉」を推進する。 ・「ながら勉強をしていない」とする児童の回答率を80%以上に上げる。	・家庭学習調査の集計の結果を個別指導に生かす。 ・「家勉」を奨励し、自主学習の習慣を定着させる。	B	・児童や保護者に家庭学習の大切さを伝えるために、家庭学習の手引きを年度当初に児童と保護者向けに配付したり、家勉コーナーを設置して家庭学習の良いモデルを示したりしながら、「家勉」への取組を推進することができた。 ・「家勉」という言葉自体も定着し、今後は内容の充実や児童の興味・関心の向上を図っていきたい。	・今後も「家勉」を進めるための取組を行う。校内研にも、引き続き家庭学習充実を図る部を設定する。 ・家庭学習調査を行い、その結果をしっかりと分析して、それを基に個別指導を行う。また家庭にも協力を仰いでいく。
		○ICT活用教育の推進	・パソコンや電子黒板等の機器を活用した授業力の向上に努める。 ・ICT機器を活用した授業を計画的に実施する。	・講師を招いて、ICT活用授業について研修を行う。 ・電子黒板で活用する教材の充実を図り、日常的に活用できるようにする。	B	・ICTに特化した研修はできなかったが、授業研究会の中でより効果的なICT活用について意見を交換できた。今後は個人のスキルアップを目指したい。 ・デジタル教科書だけでなく、書画カメラやプレゼンソフトを使った教材開発ができた。	・来年度は校内LAN環境が整う予定なので、有効利用のための研修会を、ICT推進リーダーを核としながら進めていく。 ・タッチペンやマウスなどの周辺機器の不足などがあり、満足に使用できない教室があったので、教育環境を充実させたい。
		基礎学力の向上	・国語・算数の基礎的な学力を向上させる。 ・学習指導要領や教材に関する研究を積極的に進め、活用力向上と言語活動の充実を目指した授業を展開する。	・「学習のきまり」を活用し、学習習慣の確立を目指す。 ・大坪チャレンジ、思考力テスト、ICT活用を通して、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。 ・校内研等で活用力や言語活動に関する指導方法の検討を行い、授業実践に生かす。	B	・月1回「学習のきまりチェックの日」を設けた。今後も学習習慣の定着に努めていくことが大切である。 ・大坪チャレンジのドリル学習・活用問題・思考力テストを行うことで学力調査にも良い結果が見られた。 ・漢字検定も日々の指導と練習の積み重ねにより、94%近い合格率となった。 ・学力調査結果をもとに全職員で分析と対策を話し合うことで、授業実践につなげた。 ・国語の読み・書きについては課題が見られたので、引き続き研究と実践と行っていく。	・大坪チャレンジの継続と学習習慣の確立をより強固なものとして、基礎学力向上に引き続き努力する。 ・思考力や表現力の育成をめざし、思考力テストやデジタル教科書等のICTを効果的に活用していく。 ・表現の基本となる言語集を掲示したり、授業の中に対話活動を取り入れたりしながら、書いたり話したりする機会を多く設ける。

④ 保護者・地域との連携(情報発信と相互の活用)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度(○で囲む)	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運営学校	開かれた学校づくり	学校情報の公開	・学校便り、HP、学校安心メール等による学校情報の公開と内容の充実を図る。 ・各種行事等への保護者の参加率を昨年度より高める。	・定期的に学校便りを発行する。また、定期的にHPを更新したり、学校安心メールで情報発信したりする。 ・行事等に関する案内状を早期に配付し、保護者の予定が立てやすいように配慮する。 ・「学校安心メール」への保護者登録率95%をめざす。	B	・予定通り、学校便りの発行や「学校安心メール」による情報提供が行えた。しかし、HPの更新が滞ったので、定期的に情報を流せるよう工夫する。 ・案内状は1ヶ月前に出すように心がけた。また、行事のお尋ね等にも丁寧に対応した。 ・保護者の「学校安心メール」登録率は98%を超えた。来年度は100%を目指し、更なる情報提供に努めたい。	・ホームページを定期的に更新できるように担当をしっかりとつけ、声をかける。 ・今年度から利用している「安心メール」の登録率が100%になるように呼びかけ、緊急連絡などが確実に届くようにする。 ・週行事予定メールを毎週、学校行事予定メールを学期ごとに配信し、学校の取組を細やかに知らせる。
活教育	○特色ある学校づくり	ふるさと学習の地域定着	・校区内や周辺に存在する社会教育施設や優れた教育資源を活用し、児童のふるさと学習の機会拡大を図る。	・図書館を使った「調べる学習コンクール」へ積極的に参加する。 ・地域の偉人から学び、行動する「森永エンゼルクラブ」の活動を充実させる。 ・地域への関心を高める、魅力ある事業を企画する。	A	・どの学年も市民図書館を積極的に利用し、「調べる学習コンクール」にも多くの児童が参加することができた。 ・地域の方の協力で、郷土の歴史や祭り、特産物などについて学ぶことができた。「森永エンゼルクラブ」の活動は、地域を愛するふるさと学習として大変有意義であった。これらの学習を通し、子どもたちに地域を知り、地域を愛する心が芽生えた。	・これらの学習を通し、子どもたちに地域を知り、地域を愛する心が芽生えている。森永エンゼルクラブの学習は、継続して取り組んでいくことで成果が得られるので、本校の特色ある取組としても続けていきたい。 ・校区内に市民図書館があるので、積極的に調べ学習等に活用し、大坪地区の良さを感じさせていく。
		地域や保護者とともにある学校の創造	・関係機関の指導や協力のもと、自助・共助の精神で教育環境の充実に努める。	・保護者・職員・児童の意見を反映させながら、魅力ある図書館経営に取り組む。	A	・電子化に伴って、新しい貸し借りのルールや、より合理的な図書館環境づくりに取り組んだ。また、市民図書館からの手厚いバックアップがあり、スムーズにアナログからデジタル処理へと移行することができた。 ・「まちづくり運営協議会」の支援や金子文庫による冊数増により、必要な本を必要な場所に置くことができ、更に魅力が増した図書館となった。	・教育環境の整備で、今年度多くの保護者と協働作業ができ素晴らしい成果を上げた。特に、今年度立ち上げた育友会組織である「父親委員会」の活躍がめざましかった。今後も新たな企画を考え、実践する。 ・「まちづくり運営協議会」の支援と地元木工所の活用により、本棚の設置ができた。このような地域と密着した取組を今後も続ける。
		鼓笛隊・校歌等の取組の充実	・誇りを持って鼓笛隊の練習に参加する児童を育成する。 ・校歌に愛着を持ち大切にするとともに、童謡に親しむ学校をめざす。	・「心を一つにして」を合い言葉に練習に取り組ませる。 ・明るく伸びやかに校歌を歌うことができるようにする。 ・童謡・唱歌を歌わせ、曲に親しませる。	B	・鼓笛隊は、体育大会や対外行事参加を目標に練習を行った。常に6年担任と連携を取り、協力して指導することができた。児童も伝統の大切さを感じながら、愛校心をもち、心一つにして練習に取り組んだ。 ・校歌は鼓笛隊の演奏曲目の一つとして定着しており、機会をとらえて歌うことを心がけた。	・鼓笛隊は、本校の伝統であり、児童も引き継ぐことで高学年としての自覚が生まれる。今後もこの伝統を継承したい。 ・童謡、唱歌を朝や給食中に流すことで曲に親しませたい。
課特定	家庭教育力の向上	読書活動の充実(家読)	・育友会と連携して家読の推進に努める。 ・一人平均図書貸出数を昨年度比10%増を目指す。	・保護者・育友会と連携して、家読を推進するための「うちどくウィーク」を企画・実施する。	A	・家読に特化した取組として、教養厚生委員会を中心に、その期間のうち1日を親子家読の日とする「うちどくウィーク」に取り組み、多くの家庭が取り組んだ。 ・教養厚生委員会が家読リレー用のバッグを新調し、子どもや保護者が新たな気持ちで家読に取り組めるよう努めた。	・読書活動に対する取組をさらに充実させるために、育友会と学校が連携して取り組んでいく。 ・育友会の活動として、「うちどくウィーク」と「リレーうちどく」を継続し、家読を推進する。 ・市民図書館と更に協力・連携し、読書活動を充実させたい。

⑤ 学習指導要領に即した教育課程の改善(年間指導計画の見直し)

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度(○で囲む)	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
活教育	●健康・体づくり	○食育の充実	・バランスよく栄養をとることを心がけて食べる児童を育成する。	・栄養教諭と連携し、朝ごはんの重要性や望ましいおやつづくりの指導をする。 ・給食や学級活動等を通して、偏食と食事マナーの改善を図る。	B	・年間計画や全体計画をもとに、給食委員会を中心に考えて取り組んだ。4年生は栄養教諭と一緒に食育の学習を行った。 ・今後も学級活動や給食時間などで、食と健康について考える時間を設ける必要がある。	・今後も学級活動や給食時間などで、食と健康について考える時間を設ける必要がある。
		体力の保持・増進 衛生習慣の定着化	・体力向上のための計画的な場づくりを工夫する。 ・手洗い、うがい、歯磨きの徹底化を図る。	・水泳、マラソン、縄跳び週間等の期間を設定して、積極的に取り組ませる。 ・給食前の手洗いやうがい、給食後の歯磨きを毎日実践させる。	B	・マラソントイムやなわとび週間の設定で、授業や休み時間などの取組が増えた。また、県主催のスポーツチャレンジに数クラスが取り組み、3年2組が奨励賞を受賞した。 ・給食前の手洗いや歯磨きについては、これまでの積み重ねもあり毎日しっかり実践できた。	・来年度もスポーツチャレンジの取組を体力向上のひとつの手立てとして取り入れていく。日常的に運動できるよう指導や環境を工夫する。 ・衛生面の指導については、習慣化のための指導の工夫が必要である。特にインフルエンザ等の流行に備えて習慣づけていきたい。
	情報モラル教育	情報モラルの指導	・情報社会でのルールやマナーの遵守を図る。	・情報の発信や情報のやりとりをする場合のルールやマナーについて、発達段階に応じて指導を行う。 ・情報モラルについての講演会を行う。	B	・今年度は、バザーの日に保護者対象の「情報モラル講演会」を催し、理解者を増やす機会となった。 ・動画投稿やSNSによるトラブル等が高学年で起こっており、保護者・児童の意識の低さが露呈した。育友会と協力しながら、意識向上に努めたい。	・各学級での指導だけではなく、講師を招いて児童・保護者を対象とした研修会を実施し、情報社会でのルールやマナーの徹底を図る。低学年から段階的な指導に取り組む。 ・ネットによるトラブルが起こった場合、チームを組んで情報を集めて解決に取り組む。
活教育	外国語活動	外国語活動の推進	・高学年の外国語活動における授業展開や教材教具を工夫し、児童が生き生きと活動する授業づくりに努める。 ・ALTとの効果的な連携による授業づくりに努める。	・年間カリキュラムを作成し、ワークシートや視聴覚機器を生かした授業を実践する。 ・ALTとのTT授業展開を工夫する。	B	・授業展開は主に Hi, Friends! に沿って行った。今後は、教科化に向けての指導法の研究や教材開発とその共有について検討する。また、授業時数の確保も必要である。 ・ALTとの連携については、授業前後の短い時間で簡単な打ち合わせ程度しかできなかったため、時間の確保を考えていきたい。	・教材教具は、各学級の児童の実態に応じて各々が作成したが、教科化に向けて、教材等の共有を考えていく。 ・授業時数確保のため、年間行事を見直し、無理なく合理的に時数を捻出する。 ・ALTと基本的な役割分担を行い、担任主導で授業計画を立てていく。

⑥ 学校予算の効率的活用(学校事務共同実施及び施設整備の充実・改善)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
運営校	学校予算の活用	施設・設備の充実・改善	・児童が安全・安心で快適に過ごせる環境を整えるために、予算を含めた計画を進める。	・トイレ改修等について、工事の内容や必要な備品等についての協議を行い、予算を効率的に活用し、快適な環境を整える。	B	・トイレ自体は快適だが、児童の使い方に問題があった。マナーアップも図っていききたい。 ・至るところに学校の古さを感じる。特に、雨漏り、配電、プールの水漏れ、3棟舎全体。児童の安全・安心・快適を第一に今後も対応していく。	・育友会や市とも連携し、児童が安心して生活できる環境を整えるために、点検をしっかり行い、優先順位を考えながら予算を執行する。 ・折あるごとに学校施設課職員に来校を依頼し、本校の実情を理解してもらう。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度 (○で囲む)	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○幼・保・小・中連携	幼保小連携の推進	・幼保小の交流を行い、相互理解に努める。	・夏季休業中に職員の保育体験を実施する。 ・年2回以上の情報交換会を実施する。	B	・今年度も体育大会に園の年長さんを招き、競技に参加してもらった。 ・特別支援コーディネーターを中心に園に出向き、入学後に配慮が必要な園児についての情報交換を行うことができた。 ・園職員を招いての研修会が、インフルエンザ流行の影響もあり行えなかった。来年度は是非行う。	・インフルエンザ流行時期を避けて、園の先生に来ていただいていた意見交流会を開く。 ・今後も園に出向き、新入学児の情報収集と児童のよりよい対応に努める。
		小中連携の推進	・小中の情報交換会や授業交流を行い、相互理解に努める。	・情報交換会を年3回以上、交流授業を年1回以上実施する。	B	・今年度より、伊中校区の4校は「児童生徒の活用力向上」の県の研究指定を受け、生活指導のみならず学力向上面でも更に連携を深めることとなった。また、教育相談担当者で年3回情報交換を実施した。 ・中学校生徒指導担当による交流授業を行い、情報モラルについて学習した。	・小中連携会議だけでなく、日常的に連絡を取り合い、児童生徒への対応などについての情報交換をさらに深めていきたい。 ・交流授業を2学期に行い、伊万里中学校との関係や交わりをもう少し早い段階でもちたい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校事務共同実施	・学校業務を改善し、教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう工夫する。	・学校文書処理の標準化・効率化を行う。 ・学校徴収金事務について、校内調整を図りながら業者への支払い等が円滑に行われるよう工夫する。	B	・服務帳簿の点検、及び、学校徴収金の一部について、事務職員を中心として業務を進めることで、集中管理による効率化、担任の負担軽減等を行うことができ、結果的に教員が子どもと向き合う時間を捻出することができた。	・今後も服務帳簿点検や学校徴収金の業務を進め、担任の負担軽減や集中管理による効率化をめざす。
		○業務改善プロジェクトの実施	・全職員参加による勤務体制の検討を行い、業務の明確化を図る。 ・具体的な改善策を実行し、業務の効率化を図る。	・業務改善プロジェクトチームを立ち上げる。 ・職員研修で改善の取組を計画する。 ・仕事の可視化と業務の省力化に取り組む。	B	・働き方改革プロジェクトチームを立ち上げ、現在の問題点や具体的な改善内容等について話し合い、他の職員に投げかけることができた。 ・学校行事を中心としたスリム化は図れそうだが、個人の業務量としての軽減は未だ十分ではなく、今後も業務改善の取組が不可欠である。	・学校行事を中心としたスリム化はできてきたので、来年度は個人の仕事の効率化を目指した研修会を計画する。 ・タイムカードを導入したので、毎月の結果を職員に早く報告し、月45時間超過がないよう、自身の働き方改革の資料としてもらう。

●は県の必須項目、◎は県の特定課題、○は市の共通評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取組

今年度より「活用力向上」県研究指定を受け、「確かな学力を育む指導方法のあり方」という研究主題の下、これまで研究を行ってきた「思考力・判断力・表現力」を伸ばす取組が更に一歩深まった1年となった。学習過程「もみしまれふ」の定着と、思考を支える学級環境の充実、図・式・言葉を意識したノート指導の工夫などに教員全体で取り組むことができた。また、市の漢字検定では94%の合格率を出し、規模の大きい学校としては良好な結果となった。今後は、児童の興味関心を高めるような課題設定や、より自然に行える複数人での話し合い等、さらに指導方法改善に努めたい。また、不登校や問題行動については、教育相談や特別支援教育担当者が中心となり、外部機関とも連携して、情報共有と組織的な対応を行うことができた。ケース会議を行ったり、保護者に来てもらったりしながら、その児童にとってより良い手立てが講じられるよう尽力できた。引き続き、多角的に児童を捉え、様々な選択肢から支援を行えるよう、SC、SSW、行政を含めた外部機関と連携をとっていききたい。また、ふるさと学習や体験型学習を行う際、市民図書館や民俗資料館等の地域の方々や森永製菓の方に助けていただきながら、充実した取組を行うことができた。今後も、子ども達に、地域を知り、地域を愛する心を育てる機会をつくっていききたいと思う。